

# 水俣病 補償抑制求める

## メモ発見 70年代、政府高官発言

水俣病の原因企業チソの補償で経営危機に陥った水俣病に関する1970年代後半、公的支援を求めた当時の副社長が、政府高官らとやり取りした内容をまとめたメモが見つかった。高官らが生々しい言葉で、患者の補償の抑制や、認定審査の厳格化を、チソや熊本県に求めた内容をうかがい合わせるとなっている。73年3月、患者らが起こした損害賠償訴訟で敗訴。同年7月、患者団体と一時金1600万～1800万円を支払うなどとする補償協定を結んだ。患者認定されれば協定を結ぶことから申請者が急増し、補償金の支払いに追われて経営難に陥った。

メモによると、77年9月、内閣官房副長官がチソに対し、「財政支援は一私企

業救済では大義名分がない」と発言。78年には内閣審議室長ら政府高官が「補償協定の改定、あるいは破棄をせよ。(中略)今のままではザルに水を注ぐがごとし」とチソに注文を付け、県知事に対して「補償金支出の歯止めが

欠落しているとして、認定について厳しい姿勢を求めたい」との記載もある。補償の抑制を強く求めた発言とみられる。

国は77年7月、認定審査を行う県などに対し、感覚障害と運動失調など複数条件の組み合わせを課す内容の通知を出し、これを境に申請を棄却される人が増加した。

矢作氏は「国が認定審査の厳格化を求めたのは、チソ救済に向け、補償金の増大を抑えるためだ」というこれまでの指摘が裏付けられた」としている。

## 年賀状 減少止まらず

### 元日配達 ピークの6割

日本郵便が今年(2017年)の元日に配達した年賀状は前年比約6%減の16億4000万枚となり、8年連続で前年を下回った。年賀状は例年、7割程度が元日に届く。元日の配達枚数は、ピークの1993年から4割も減った。

電子メールやソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)の普及が背景にある。

日本郵便は若者層を取り込むため、コマージュルに人気アイドルグループ「嵐」を2年連続で起用した。しかし、年賀状の利用減に歯止めをかけることができない。年賀状の枚数は、2010年から30億枚となる見込みで、過去最大の減少傾向だ。

日本郵便の郵政の長門正樹は「年賀状の長門正樹を思い、書けられない」と話している。

## 豊橋のメーカー開発

サイシン、ハーブなどを練り込んだ。網の繊維にはウイリスを不活性化させる薬剤を固着させているという。幅91センチ、長さ30センチで、値段は9万9800円(税込)。

昨年末、愛知県田原市の農場に「ネスサル」を設置した鶏卵生産・販売会社「イラコファーム」(豊橋市)の高井正和社長(40)は「普段から消毒やネズミ対策は行っているが、さらに万全を期すために使っている」と話した。問い合わせは「くればば」(0532・51・4151)。

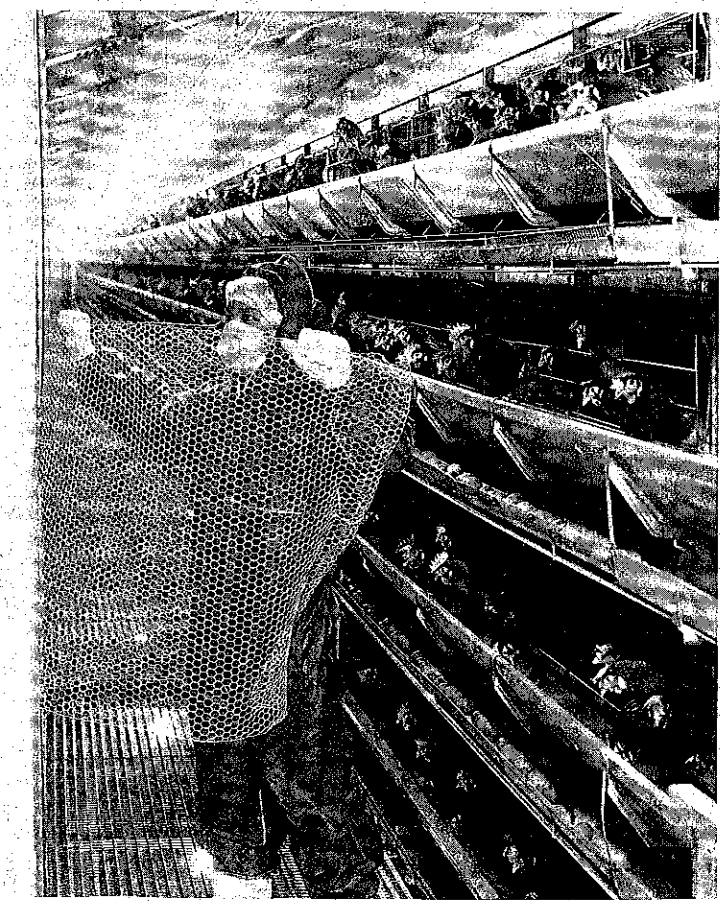
## 鳥インフル 一網打尽

家畜農場などで鳥インフルエンザの発生が相次ぐ中、愛知県豊橋市のメッシュ製品メーカー「くればば」が、ウイリスを媒介するネズミの侵入を防ぐ網を開発した。商品名は「ネスサル」で、韓国の養鶏業者などから続々と注文が寄せられているという。日本でも13日から本格的に販売を始める。

ネズミは、鳥インフルエンザに感染した渡り鳥のフンに触れるなどし、ウイリスを持ち込む危険がある。「ネスサル」はかじられても破れないよう鉄線を入れ、ネズミが嫌う辛み成分や香りを付与する

## 媒介のネズミ 侵入防止ネット

豊橋のメーカー開発



鳥インフルエンザ対策用に開発されたネットを張る準備を進める養鶏場のスタッフ(6日、愛知県田原市で)＝小林武仁撮影

# 亡き友と20歳の誓い

陸前高田

8日に東日本大震災の被災地で開かれた成人式。新たな門出を迎えた新成人たちは「いつまでも一緒に」前を進む姿を見てほしい」と過去を受け止め、未来へ向かうことを誓った。

## 「これからも一緒に年とする」

約1800人が死亡・行方不明になった岩手県陸前高田市の市立小友中学校の元野球部員たちは、亡くなったチームメイトの遺影を手に成人式に臨んだ。

震災の日、1、2年生部員8人は自転車でも市中心部に買い物に出かけ、津波にのまれた。亡くなった2年生の菅野孝太君(当時14歳)、紺野将成君(同)は今年、仲間と共に成人式を迎えるはずだった。

「一緒にいるのが当たり前。家族みたいな存在だった」。小学校時代からスポーツ少年団で一緒に汗を流してきた6人は、中学でもそろって野球を続けた。

外野を守った菅野君はいま、たずら好きで、いつも周りを笑顔にした。「かんと」が打てば打線がつながる」と言われるムードメーカーだった。エースだった紺野君は、仲間から頼られる存在で、「困った時に相談するなら、まっさ。心の支えだった」と元部員は口をそろえる。

しかし、濁流は突然襲ってきた。遺体安置所で対面

## 熊本復興祈る舞



昨年4月の熊本地震で甚大な被害を受けた熊本県嘉島町では、町の中学校を卒業し、京都で舞妓になった新成人の多香(本名・吉田多香さん19)が、同級生ら74人の前で舞を見せた写真。

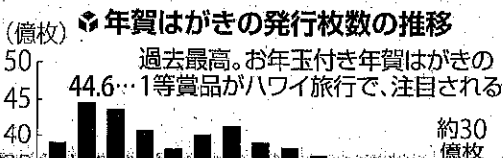
最大震度6強を観測した同町では住宅777棟が全半壊。多香さんの実家は被害を免れたものの、近くの親類宅は全壊した。同5月に帰郷した際、地震の傷痕が残る古里に言葉を失ったという。今回は町から勧められ、

## 京都の舞妓「古里に元気」

「復興の手助けに舞を披露すること」式では、「みんなってほしい」という祝い歌の「松の名」テンポの良い「抵小唄」を舞った。級生だった会社員(20)は「すごく奇かな気分になり、多香を送っていた。多香もみんなに元気を送ります」と笑顔を見



チームメイトだった菅野孝太君(左)と紺野将成君の遺影を手に成人式に臨む市立小友中学校の元野球部員たち(8日、岩手県陸前高田市で)



各地の気温と天気 8日

天気	最高気温	最低気温
東京	11.5	4.0
大阪	10.0	3.0
名古屋	9.5	2.0
福岡	11.0	3.0
札幌	5.0	-1.0
仙台	7.0	0.0
東京(予)	12.0	4.0
大阪(予)	10.5	3.5
名古屋(予)	10.0	2.5
福岡(予)	11.5	3.5
札幌(予)	6.0	-0.5
仙台(予)	8.0	1.0